

資源ツインαファンド (通貨選択型) 米ドルコース

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/その他資産(原油先物取引・金先物取引)	
信託期間	2015年5月8日から2018年7月25日まで	
運用方針	安定した配当収入の確保と値上がり益の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	円建ての外国投資信託証券である「資源ツインアルファ米ドルファンド」および親投資信託である「T&Dマネーパールマザーファンド」を主要投資対象とします。	
	資源ツインアルファ米ドルファンド	主として米ドル建政府債を投資対象とします。JPモルガンチェースバンクN. A. ロンドン支店、もしくはJPモルガン・グループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。担保付スワップ取引を通じて、実質的に下記の各戦略を組み合わせた投資成果の享受を目指します。 ・米ドル建の原油先物取引への投資と原油オプション取引を組み合わせた戦略(原油カバードコール戦略)と米ドル建の金先物への投資と金オプション取引を組み合わせた戦略(金カバードコール戦略)の投資成果の享受を目指します。 ・米ドル(対円レート)の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果の享受を目指します。
	T&Dマネーパールマザーファンド	わが国の国債および公社債ならびに短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。	
	資源ツインアルファ米ドルファンド	店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 有価証券の空売りは行いません。
	T&Dマネーパールマザーファンド	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時(毎月25日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益(評価益を含みます。)が中心となる場合があります。	

運用報告書(全体版)(第1作成期)

第1期(2015年6月25日)

第2期(2015年7月27日)

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「資源ツインαファンド(通貨選択型)米ドルコース」は、2015年7月27日に第2期決算を行いましたので、第1期から第2期の運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸1-2-3

お問い合わせ先

投信営業部 03-3434-5544

(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期		基準価額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	資 源 ア ル ド ン 組 入 比 率	ツ イ ン フ ォ ン ド 入 比 率	純 資 産 額
		(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰 落 率					
第 1 作 成 期	設定日 2015年5月8日	円 10,000	円 -	% -	% -	% -	% -	百万円 665	
	1期 (2015年6月25日)	9,876	400	2.8	0.1	-	97.2	4,586	
	2期 (2015年7月27日)	8,038	400	△14.6	-	-	96.0	5,524	

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期中の基準価額等の推移

決算期	年 月 日		基準価額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	資 源 ア ル ド ン 組 入 比 率	ツ イ ン フ ォ ン ド 入 比 率
			騰 落 率					
第1期	設定日	2015年5月8日	円 10,000	% -	% -	% -	% -	
		5月末	9,889	△ 1.1	0.2	-	97.6	
	期 末	2015年6月25日	10,276	2.8	0.1	-	97.2	
第2期	期 首 (前期末)	2015年6月25日	9,876	-	0.1	-	97.2	
		6月末	9,632	△ 2.5	0.1	-	98.5	
	期 末	2015年7月27日	8,438	△14.6	-	-	96.0	

(注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

(注) 設定日の基準価額には、当初元本を用いております。

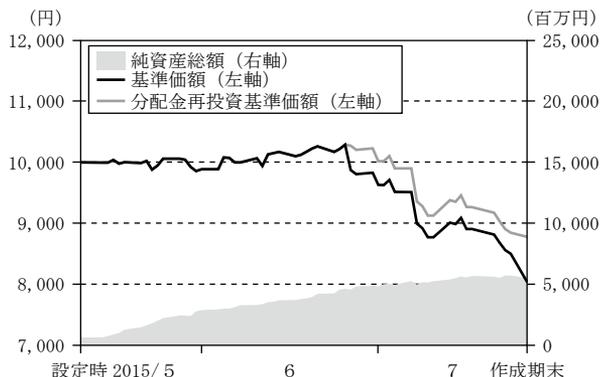
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



設定日：10,000円

第2期末：8,038円（既払分配金800円）

騰落率：△12.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2015年5月8日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、原油先物価格および金先物価格が大きく下落したことにより下落しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
資源ツインアルファ 米ドルファンド	△12.5%
T&Dマネーブールマザーファンド	0.0%

■ 投資環境

【原油市場】

当作成期に原油市場は下落しました。

設定日から6月末にかけては、米国国内での原油の供給過剰な状況が確認されたこと、6月のOPEC（石油輸出国機構）総会において目標生産量が据え置かれたこと、米国の原油在庫が市場予想を上回る取り崩しとなったことなど強弱材料が交錯し、一進一退の動きとなりました。7月は、ギリシャ国民投票の結果や中国株式の急落、核開発問題を巡る6ヵ国協議合意を受けてイラン産原油の市場復帰観測等による供給過剰懸念から大幅に下落しました。

【金市場】

当作成期に金市場は下落しました。

設定日から5月末にかけては、一旦上昇しましたが、米国のCPI（消費者物価指数）が市場予想を上回ったことやFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言を受けて、円安米ドル高が進行したことから、米ドルの代替資産とされる金は下落しました。6月は、米国の民間雇用関連指標が市場予想を上回る強さだったことやギリシャを巡る問題が解決に向かうとの楽観的な見方から、世界経済が一時の停滞期を抜けて堅調さを取り戻しつつあるとみなされ、リスクヘッジ目的として買われていた金は売られる展開となりました。7月は、ギリシャ危機を背景に逃避需要の米ドル買いが膨らんだことや、FRB議長が米国経済の回復を受けて年内利上げの可能性を示唆したことにより米ドルが上昇したことなどから、金は大きく下落しました。

【米ドル／円】

当作成期に米ドル（対円）相場は米ドル高円安となりました。

設定日から5月末にかけては、米国の住宅着工件数およびC P I が堅調な結果になったことや、F R B議長が年内利上げの可能性に言及したことで米ドル高が進みました。6月10日に、黒田日銀総裁の発言が円安牽制と受け止められ、円は一時的に急騰しました。その後、6月末にかけてギリシャのデフォルト懸念が強まったことから米ドル安となりました。7月上旬は、中国株の大幅安もあり米ドル安が進みましたが、ギリシャ救済合意の報道から反転し米ドル高となりました。

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは概ね0.00%程度で横ばい推移となりました。

日銀による国庫短期証券買入が継続し、良好な需給環境が続きました。7月上旬の国庫短期証券入札の結果が堅調な内容だったことから利回りは一時 Δ 0.077%まで低下しました。作成期末の利回りは Δ 0.001%程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

作成期を通じて、「資源ツインアルファ 米ドルファンド」に概ね91～98%程度投資し、残りの資産につきましては「T&Dマネープールマザーファンド」およびコールローンで運用を行いました。

【資源ツインアルファ 米ドルファンド】

担保付スワップ取引を活用して、資源カバードコール戦略（米ドル建ての原油先物および金先物の価格変動とそれぞれのオプション取引を組み合わせた戦略）、通貨カバードコール戦略（米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせた戦略）を組み合わせた運用を行いました。

【T&Dマネープールマザーファンド】

作成期を通じて国庫短期証券の組入比率は概ね85%程度の水準としましたが、作成期末にかけては国庫短期証券の利回りがマイナスになったことから組み入れを見送り、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は基準価額水準等を勘案し、第1期、第2期ともに400円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「資源ツインアルファ 米ドルファンド」および「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行います。

【資源ツインアルファ 米ドルファンド】

引続き、担保付スワップ取引を活用して、資源カバードコール戦略（米ドル建ての原油先物および金先物の価格変動とそれぞれのオプション取引を組み合わせた戦略）、通貨カバードコール戦略（米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせた戦略）を組み合わせた運用を行います。

【T&Dマネープールマザーファンド】

国内景気は消費増税後の落ち込みを抜け出し、ほぼ安定したと言えますが、回復の足取りは強いとは言えません。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられ、金融緩和政策が継続すると思われます。したがって、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2015年5月8日から2015年7月27日まで)

費用の明細

項目	第1期～第2期		項目の概要
	2015/5/8～2015/7/27		
	金額	比率	
平均基準価額	9,760円		作成期間の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	30円 (13) (16) (1)	0.306% (0.132) (0.166) (0.007)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.002 (0.002)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	30	0.308	

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2015年5月8日から2015年7月27日まで)

(1) 投資信託証券

		第1期～第2期			
		買付		売却	
		口数	金額	口数	金額
外国 (邦貨建)	資源ツインアルファ 米ドルファンド	千口 692.15	千円 6,616,663	千口 -	千円 -

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。ただし口数が単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	第1期～第2期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
T & D マネーブルマザーファンド	千口 6,383	千円 6,500	千口 -	千円 -

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2015年5月8日から2015年7月27日まで)

当作成期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2015年7月27日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 作 成 期 末 (第 2 期 末)		
	口 数	評 価 額	比 率
資源ツインアルファ 米ドルファンド	口 692.15	千円 5,305,260	% 96.0

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。ただし口数が単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 作 成 期 末 (第 2 期 末)	
	口 数	評 価 額
T & D マネープールマザーファンド	千口 6,383	千円 6,500

(注) T & D マネープールマザーファンド全体の受益権口数は1,705,053千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2015年7月27日現在)

項 目	当 作 成 期 末 (第 2 期 末)	
	評 価 額	比 率
資源ツインアルファ 米ドルファンド	千円 5,305,260	% 89.9
T & D マネープールマザーファンド	6,500	0.1
コール・ローン等、その他	589,552	10.0
投資信託財産総額	5,901,312	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年6月25日現在 2015年7月27日現在

項 目	第 1 期 末	第 2 期 末
(A) 資 産	4,877,368,010円	5,901,312,401円
コール・ローン等	414,961,545	589,551,067
資源ツインアルファ 米ドルファンド(評価額)	4,455,906,352	5,305,260,535
T & D マネー・プール マザーファンド(評価額)	6,500,000	6,500,638
未 収 利 息	113	161
(B) 負 債	290,926,629	376,838,585
未 払 金	91,356,972	91,702,512
未 払 収 益 分 配 金	185,768,299	274,932,516
未 払 解 約 金	8,823,827	3,764,077
未 払 信 託 報 酬	4,950,478	6,404,465
その 他 未 払 費 用	27,053	35,015
(C) 純資産総額(A-B)	4,586,441,381	5,524,473,816
元 本	4,644,207,477	6,873,312,912
次 期 繰 越 損 益 金	△ 57,766,096	△1,348,839,096
(D) 受 益 権 総 口 数	4,644,207,477口	6,873,312,912口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,876円	8,038円

	第 1 期	第 2 期
(注) 期首元本額	665,440,420円	4,644,207,477円
期中追加設定元本額	4,003,559,693円	2,244,034,545円
期中一部解約元本額	24,792,636円	14,929,110円
(注) 元本の欠損		
第2期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差は1,348,839,096円です。		
(注) 1口当たり純資産額は、第1期0.9876円、第2期0.8038円です。		

分配金の計算過程

【第1期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益(216,826,607円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)および収益調整金(51,431,931円)より、分配対象収益は268,258,538円(1万口当たり577円)であり、うち185,768,299円(1万口当たり400円)を分配金額としております。

【第2期】

計算期間末における費用控除後の配当等収益(369,285,054円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(136,044,854円)および分配準備積立金(30,992,589円)より、分配対象収益は536,322,497円(1万口当たり780円)であり、うち274,932,516円(1万口当たり400円)を分配金額としております。

損益の状況

自2015年5月8日 自2015年6月26日
至2015年6月25日 至2015年7月27日

項 目	第 1 期	第 2 期
(A) 配 当 等 収 益	221,804,138円	375,724,534円
受 取 配 当 金	221,800,746	375,721,654
受 取 利 息	3,392	2,880
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△106,267,413	△1,202,794,841
売 買 益	348,156	2,018,073
売 買 損	△106,615,569	△1,204,812,914
(C) 信 託 報 酬 等	△ 4,977,531	△ 6,439,480
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	110,559,194	△ 833,509,787
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	-	△ 75,021,938
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	17,443,009	△ 165,374,855
(配 当 等 相 当 額)	(51,431,931)	(136,044,854)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 33,988,922)	(△ 301,419,709)
(G) 合 計 (D+E+F)	128,002,203	△1,073,906,580
(H) 収 益 分 配 金	△185,768,299	△ 274,932,516
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△ 57,766,096	△1,348,839,096
追 加 信 託 差 損 益 金	17,443,009	△ 165,374,855
(配 当 等 相 当 額)	(51,431,931)	(136,044,854)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 33,988,922)	(△ 301,419,709)
分 配 準 備 積 立 金	31,058,308	125,345,127
繰 越 損 益 金	△106,267,413	△1,308,809,368

(注) 損益の状況の中で

- (B) 有価証券売買損益は、各期末の評価換えによるものを含みます。
- (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第1期	第2期
	2015年5月8日 ～2015年6月25日	2015年6月26日 ～2015年7月27日
当期分配金	400	400
（対基準価額比率）	3.893	4.740
当期の収益	400	400
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	177	380

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

※元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

補足情報

T & D マネープールマザーファンドの主要な売買銘柄

公社債

2015年5月8日から2015年7月27日まで

買	付	売	付
銘柄	金額	銘柄	金額
第524回国庫短期証券	千円 1,099,991	—	千円 —

(注) 金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。単位未満は切捨て。

T & D マネープールマザーファンドの組入資産の明細

当作成期末における組入れはありません。

組入投資信託証券の内容

パッシブ・トラスト
 資源ツインアルファ ブラジルリアルファンド
 資源ツインアルファ トルコリラファンド
 資源ツインアルファ 米ドルファンド

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分	類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
運用基本方針 主な投資対象		主として米ドル建政府債および担保付スワップ取引に投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。
投資態度		<p>【各ファンド】 主として米ドル建政府債を投資対象とします。 J PモルガンチェースバンクN. A. ロンドン支店、もしくはJ Pモルガン・グループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。 担保付スワップ取引を通じて、実質的に下記の各戦略を組み合わせた投資成果の享受を目指します。</p> <p>(資源ツインアルファ ブラジルリアルファンド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ドル建の原油先物取引への投資と原油オプション取引を組み合わせた戦略（原油カバードコール戦略）と米ドル建の金先物への投資と金オプション取引を組み合わせた戦略（金カバードコール戦略）の投資成果の享受を目指します。 ・米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果の享受を目指します。 ・ブラジルリアル買い／米ドル売りの為替取引を行い、米ドルに対するブラジルリアル為替差益と為替取引によるプレミアムの享受を目指します。 <p>(資源ツインアルファ トルコリラファンド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ドル建の原油先物取引への投資と原油オプション取引を組み合わせた戦略（原油カバードコール戦略）と米ドル建の金先物への投資と金オプション取引を組み合わせた戦略（金カバードコール戦略）の投資成果の享受を目指します。 ・米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果の享受を目指します。 ・トルコリラ買い／米ドル売りの為替取引を行い、米ドルに対するトルコリラ為替差益と為替取引によるプレミアムの享受を目指します。 <p>(資源ツインアルファ 米ドルファンド)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ドル建の原油先物取引への投資と原油オプション取引を組み合わせた戦略（原油カバードコール戦略）と米ドル建の金先物への投資と金オプション取引を組み合わせた戦略（金カバードコール戦略）の投資成果の享受を目指します。 ・米ドル（対円レート）の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果の享受を目指します。
主な投資制限		①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借り入れは行いません。 ④一発行会社の発行済株式総数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性における資産の組入れは15%以下とします。 ⑥運用会社ならびに管理会社は、自己または投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等は行いません。
決算日		6月30日
分配方針		原則として、毎月分配を行います。
投資運用会社		J. P. モルガン・マンサール・マネジメント・リミテッド

《お知らせ》

組入投資信託証券は2015年6月30日に第1期決算を迎えましたが、2015年7月27日現在、監査済報告書の作成が終了していないため、開示できる情報はありません。

T & D マネープールマザーファンド

運用報告書（全体版） 第21期（決算日 2015年6月10日）
（計算期間 2014年12月11日から2015年6月10日）

「T & D マネープールマザーファンド」は、2015年6月10日に第21期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落中率 %			
17期（2013年6月10日）	10,175	0.0	84.4	—	百万円 1,858
18期（2013年12月10日）	10,179	0.0	85.3	—	1,793
19期（2014年6月10日）	10,181	0.0	85.3	—	1,771
20期（2014年12月10日）	10,183	0.0	22.0	—	1,771
21期（2015年6月10日）	10,183	0.0	21.3	—	1,736

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首 (前期末) 2014年12月10日	円 %	%	%
12月末	10,183 —	22.0	—
2015年1月末	10,183 0.0	22.1	—
2月末	10,183 0.0	84.6	—
3月末	10,183 0.0	85.2	—
4月末	10,183 0.0	84.8	—
5月末	10,183 0.0	85.3	—
期 末 2015年6月10日	10,183 0.0	84.7	—
		21.3	—

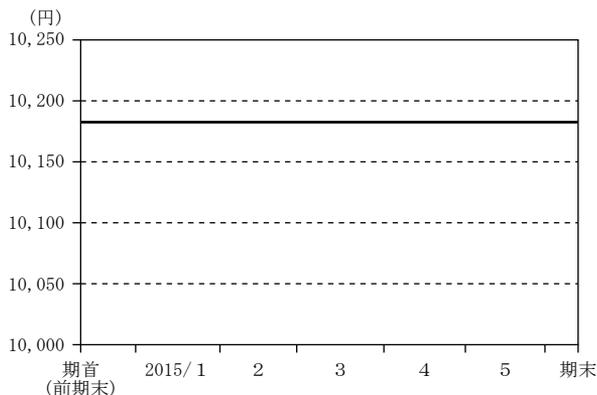
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の変動要因

基準価額は10,183円からスタートしましたが、主な投資対象である国庫短期証券の金利水準がほぼ0%だったことから、基準価額は横ばいとなりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りはほぼ横ばいでした。12月に日銀が国庫短期証券の買入オペを減額したことで利回りは一時0.02%まで上昇しました。1月は買入オペが増額されたため、利回りは再度低下、追加緩和

観測もあり、一時△0.057%となりましたが、1月下旬の金融政策決定会合で政策の現状維持が決定されたことで追加緩和期待が後退、利回りは0.00%近辺まで上昇しました。その後、4月には日銀による国庫短期証券の買入金額が増額されたことで利回りがマイナスとなる場面もありましたが、5月中旬には再度0%を上回り、当期末は0.00%程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の組入比率は、期を通じて概ね85%程度の水準としましたが、国庫短期証券の利回りがマイナスとなっていた局面では組入れを見送り、一時的に0%程度まで低下したため、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 今後の運用方針

国内景気は消費増税後の落ち込みを抜け出し、ほぼ安定したと言えますが、回復の足取りは強いとは言えません。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられ、金融緩和政策が継続することから、国内短期金利は極めて低い水準で推移することが見込まれます。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2014年12月11日から2015年6月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2014年12月11日から2015年6月10日まで)

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国 内	国 債 証 券	4,189,895	— (4,210,000)

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

(注) () 内は償還による減少分です。

当期中の主要な売買銘柄 (2014年12月11日から2015年6月10日まで)

公社債

買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
		金 額	金 額
		千円	千円
第525回国庫短期証券	1,099,967	—	—
第496回国庫短期証券	1,099,961		
第503回国庫短期証券	1,089,988		
第521回国庫短期証券	369,986		
第502回国庫短期証券	229,996		
第497回国庫短期証券	169,998		
第499回国庫短期証券	129,998		

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2014年12月11日から2015年6月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2015年6月10日現在)

下記は、T&Dマネープールマザーファンド全体(1,705,053千円)の内容です。

公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債<種類別>

区 分	当 期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国 債 証 券	370,000 (370,000)	369,997 (369,997)	21.3 (21.3)	— (—)	— (—)	— (—)	21.3 (21.3)

(注) () 内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は原則として償却原価法により評価しています。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内(邦貨建)公社債<銘柄別>

区 分	当 期			末		
	銘 柄	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国 債 証 券	第521回国庫短期証券	% —	千円 370,000	千円 369,997	2015/6/29	
合 計	銘 柄 数 金 額	1 銘柄	370,000	369,997		

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2015年6月10日現在)

項 目	当 期		末
	評 価 額	比 率	
公 社 債	千円 369,997	% 21.3	
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,366,332	78.7	
投 資 信 託 財 産 総 額	1,736,329	100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年6月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,736,329,592円
コール・ローン等	1,366,332,198
公 社 債(評価額)	369,997,020
未 収 利 息	374
(B) 純 資 産 総 額(A)	1,736,329,592
元 本	1,705,053,311
次 期 繰 越 損 益 金	31,276,281
(C) 受 益 権 総 口 数	1,705,053,311口
1万口当たり基準価額(B/C)	10,183円

(注) 期首元本額 1,739,469,494円
 期中追加設定元本額 14,952,374円
 期中一部解約元本額 49,368,557円

(注) 1口当たり純資産額は1.0183円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

世界物価連動国債ファンド	111,233,927円
T&Dインド中小型株ファンド	19,925,634円
米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース	6,920,372円
米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)通貨プレミアム・コース	125,922,774円
米国リート・プレミアムファンド(年2回決算型)マネーボール・コース	78,655円
豪州高配当株ツインαファンド(毎月分配型)	4,916,905円
野村エマーゼンツ債券投信(円コース)毎月分配型	88,894,868円
野村エマーゼンツ債券投信(円コース)年2回決算型	10,388,902円
野村エマーゼンツ債券投信(米ドルコース)毎月分配型	3,938,752円
野村エマーゼンツ債券投信(米ドルコース)年2回決算型	1,296,661円
野村エマーゼンツ債券投信(豪ドルコース)毎月分配型	72,378,562円
野村エマーゼンツ債券投信(豪ドルコース)年2回決算型	5,091,243円
野村エマーゼンツ債券投信(ブラジルリアルコース)毎月分配型	743,452,592円
野村エマーゼンツ債券投信(ブラジルリアルコース)年2回決算型	21,323,095円
野村エマーゼンツ債券投信(南アフリカランドコース)毎月分配型	4,555,789円
野村エマーゼンツ債券投信(南アフリカランドコース)年2回決算型	269,211円
野村エマーゼンツ債券投信(カナダドルコース)毎月分配型	9,976,710円
野村エマーゼンツ債券投信(カナダドルコース)年2回決算型	1,310,211円
野村エマーゼンツ債券投信(メキシコペソコース)毎月分配型	200,165,843円
野村エマーゼンツ債券投信(メキシコペソコース)年2回決算型	36,421,805円
野村エマーゼンツ債券投信(トルコリラコース)毎月分配型	182,506,222円
野村エマーゼンツ債券投信(トルコリラコース)年2回決算型	11,406,975円
野村エマーゼンツ債券投信(金コース)毎月分配型	20,422,125円
野村エマーゼンツ債券投信(金コース)年2回決算型	4,365,016円
野村エマーゼンツ債券投信(マネーボールファンド)年2回決算型	5,624,920円
資源ツインαファンド(通貨選択型)ブラジルリアルコース	4,910,145円
資源ツインαファンド(通貨選択型)トルコリラコース	883,826円
資源ツインαファンド(通貨選択型)米ドルコース	6,383,188円
資源ツインαファンド(通貨選択型)マネーボールコース	88,383円

損益の状況

当期 自2014年12月11日 至2015年6月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	136,429円
受 取 利 息	136,429
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	193
売 買 益	193
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	136,622
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	31,769,476
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	273,626
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 903,443
(G) 合 計(C+D+E+F)	31,276,281
次 期 繰 越 損 益 金(G)	31,276,281

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。